



竹  
取  
物  
語  
  
冒  
頭



今は昔、<sup>①</sup>竹取の翁といふ者ありけり。<sup>②</sup>野山に

まじりて竹を取りつつ、<sup>③</sup>よろづのことに使ひけり。<sup>④</sup>名をば、さぬきのみや

つつことなむいひける。

<sup>⑤</sup>その竹の中に、<sup>⑥</sup>もと光る竹なむ一筋ありける。<sup>⑦</sup>あやしがりて、寄りて

見るに、筒の中光りたり。<sup>⑧</sup>それを<sup>⑨</sup>見れば、三寸ばかりなる人、<sup>⑩</sup>いとうつ

くしうてゐたり。

- 問1 傍線部①「竹取の翁」と同じ人物を表す言葉を、本文中から抜き出せ。

- 問2 傍線部②「野山にまじりて竹を取りつつ」の主語を表す言葉を、本文中から五字以内で抜き出せ。

- 問3 傍線部③「よろづのことに使ひけり」の主語を表す言葉を、本文中から五字以上、十字以内で抜き出せ。

- 問4 傍線部④「名をば、さぬきのみやつことなむいひける」を、現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書け。

- 問5 傍線部④「名をば、さぬきのみやつことなむいひける」を、現代語訳せよ。

- 問6 傍線部④「名をば、さぬきのみやつことなむいひける」では、「なむ」があることで、文末は終止形「けり」ではなく、「ける」となっている。このような文法規則を何というか。4字で答えよ。

- 問7 傍線部⑤「その竹の中に」を、指示語の内容を明らかにして、二十字以内で現代語訳せよ。ただし、主語を補う場合は、本文中の言葉を使用すること。

□問8 傍線部⑥「もと光る竹なむ一筋ありける」を、現代仮名遣いに直せ。

□問9 傍線部⑥「もと光る竹なむ一筋ありける」を、現代語訳せよ。

□問10 傍線部⑥「もと光る竹なむ一筋ありける」とあるが、「ありける」の主語を、本文中から抜き出せ。

□問11 傍線部⑦「あやしがりて、寄りて見るに」の主語を補い、二十字以内で現代語訳せよ。ただし、主語は本文中から抜き出したものを使用すること。

□問12 傍線部⑧「それ」の表す内容を、本文中から五字以内で抜き出せ。

□問13 傍線部⑨「見れば」の主語を、本文中から抜き出せ。

□問14 傍線部⑩「いとうつくしうてゐたり」の主語を本文中から抜き出せ。